

ガイドラインとは何か？

工学部教職員組合 岡屋克則

お集まりいただきました皆様ありがとうございます。

また時計台付近をご通行中の皆様、この問題は大変重要な事ですので、少しでもお聞きいただければ幸いです。

さて、今回の東京大学に限らず「ガイドライン」とは何でしょうか？

「この事はやって良い。この事はやってはいけない。」ということをはっきりさせるのがガイドラインです。

「しっかり考えなければいけない。」というのはガイドラインでも何でもありません。

例えば、道交法は交通事故をなくすためのガイドラインです。「信号が赤の時は、どうするかよく考えよう」などとは規定されていません。「赤信号で渡ってはいけない」というのがまっとうなガイドラインです。

今回、情報理工のガイドラインが一步後退し曖昧さが増したこと、および総長の中途半端なコメントによって、マスコミが恰好のつっこみどころとして「東大は軍事研究を解禁した！」と言わしめたのです。

ガイドラインの何たるかをきちんと認識せずに、中途半端なガイドラインを出すから、余計な騒動がおこります。それくらいなら、黙っている方が良かったのではないかと思います。

しかし、ことここに至っては、誰もが誤解することのない端的で明解なガイドラインを示すことが東京大学の責任であります。

もう一つの問題点は、「デュアルユースとか両義性」などという言葉を使って責任を研究者に押し付けようとする姿勢です。研究者のすべてが善良で、反戦的な思想の持ち主であるという保証がどこにあるのでしょうか？ 少なくとも私は就職に際して、「戦争、好きですか？ 嫌いですか？」と問われてはいません。

米国のアポロ計画で初めて人類を到達させたフォン・ブラウン博士はヒトラーの資金でV2ミサイルをイギリスに向けて飛ばした人です。彼は「悪魔に魂を売っても、月まで行けるロケットを作りたかった。」と述懐しています。

技術や知識のあらゆるものは「二面性」を持っています。善にもなれば悪にでもなる。

その二面性を認めたくえで「よく考える」というのはガイドライトしての意味を持っているのでしょうか？

「月に行くためだ！」と言っていれば「ミサイル」を作って良い。ということでしょうか？

そもそも、専門分野に卓越した研究者であっても、人類の平和的な未来を熟慮しているとは限らないのです。むしろそういった部分においては子供同然の人も数多くいます。

このような人々に「両義性」の名のもとに判断を任せるということは、善悪の判断力のない子供にピストルを与えて、「使っちゃダメよ！」と言っているのも同然です。

いったい東京大学はどうせよと言うのでしょうか？ 言い訳を考えて「軍事研究ではない。」と言い張ることを条件に何をしてもよいと言っているかのようです。

多少混乱してきましたが、このような曖昧な状態ではいけない。はっきりと「軍事研究はやらない。」という明確なガイドラインを打ち出すべきだ！ というのが私の主張です。

ご清聴ありがとうございました。